

復興は健康から

いわて東北M・Mの取り組み

⑧

10月に入り、気仙でも目に見える形で「いわて東北メディカル・メガバンク事業」の取り組みが動き出した。住田町では3日までの3日間、特定健診に合わせた地域住民コホート調査が行われた。

本年度対象となっている県内他自治体と同様、町内に住民登録がある20歳から74歳までが対象（住田町での対象は35歳以上）。同意者は、健診を兼ねた採尿と30ミリの採血、アンケート調査を行った。

コホート事業は、より

多くの住民から食生活や飲酒、喫煙といった生活習慣などを調べ、さらに長期にわたって追跡することで、病気の発症や関連を調べる。未曾有の被害をもたらした東日本大震災によるストレスが、健康面にどう影響するかも対象となっている。

一連の取り組みは、震災後全国的な報道などでよく聞くようになった「ビッグデータ」活用と似ている部分がある。インターネットをはじめ通信上で得られる膨大な情報を分析・収集することで、災害時に生かす取り

組みが各方面で注目されている。コホート事業も、多くの住民から寄せられた多様なデータを研究、分析することで、将

気仙でも動きも本格化

特定健診との連動、講演会

来の予防充実などに生かされる。

研究における貴重なデータとなる一方、その場では住民側にとって採血や調査票記入による時間的拘束など、デメリットが生じる。しかしコホート事業では、個人に對してもより詳しい健康データを返すことで、双

方にメリットがある事業展開を目指している。

具体的には▽心不全の指標▽こころの健康▽腎機能▽推定栄養素摂取量▽推定疾病発症予測――などを把握できる。住田町では、多くの住民が調査に協力し、地域全体の健康づくりにつながる一歩を踏み出した。

大船渡市では、今月11

臓は大丈夫？生活習慣病との密接な関係」、祖父江氏は「こころと身体の健康をめざして」をテーマに、普段の生活における身近な注意点などをアドバイス。この中で、本年度の特定健康健診に合わせて市内で行われるメディカル・メガバンク事業の説明もあり、住民と機関関係者が顔を合わ

震災を機に、昨年から文部科学省で東北メディカル・メガバンク計画検討会が始まり、岩手医大内に「機構」が設置された。昨年9月に祖父江機構長が気仙3市町の各首長を訪問して理解を求めするなど、地道な準備が続けられてきた。

いよいよ、住民が参画する形で始まった本格調

査。といっても、住民側にとって堅苦しさは何もない。

そもそも合わせて行われる特定健診は、病気になる前の小さな「前触れ」を知ることができ、大切な機会でもある。自らのため、地域の将来のためにつながることはあるが、まずは気軽に足を運ぶことが重要となる。



住田町で特定健診と合わせて行われたコホート事業

地域住民の参画